

## 平成28年 冬の交通安全運動

2016年11月11日(金)~11月20日(日)

冬道の危険を予知して、最大限の事故回避を

◆スリップ事故 注意 /◆

峠・橋の上・日陰・トンネルの出入り口 交差点手前、滑って交差点内で衝突 /注意しましょう

## 命をあがなう

2016/11/12 10:30

「交通事故は被害者になっても大変だが、加害者になったらもっと大変だ」。こう記された本を目にしたとき、長女を交通事故で亡くした経済学者の二木雄策さんは怒りがこみ上げたそうだ▼「事故で殺されるよりもっと大変な加害者の『生』はあるのか。事故で失った生命はいかなる代償によってもあがなわれません」。娘の事故の刑事裁判に関する体験を交えて、賠償のあり方を提言した「交通死」(岩波書店)につづっている▼砂川市の国道で一家5人が死傷した事故の札幌地裁判決を見て、二木さんの言葉がよみがえった。犠牲者にとって飲酒運転した加害者に科せられた懲役23年はどんな意味を持つのか▼もし生きていけば家族で食卓を囲み、両親は子供の成長に目を細めていたはず。遺族の1人は「何十年加害者が刑務所に入っても、事故は忘れられない」と語っていた▼運転すれば誰もが加害者になり得るのに、意識する機会はそう多くない。自分だけは問題を起こさないと思い込んでいる。「まさか」が常に隣にしていることをお互い胸に刻むのはもちろんだが、それだけではない▼経済学者の宇沢弘文さんが1974年に著した「自動車の社会的費用」を思い出す。「人々が自由に安全に都市の街路を歩けないような国を文明国とってよいだろうか」。文明国ならば、飲酒しての暴走運転など不可能な車の開発はできると思うのだが。

気のゆるみ スピード出し過ぎていませんか？

交差点では、信号の変わり目の…「見切り発車」、「後追い行動」は危険です

交差点 信号が、「青」に変わった！ チョット待て！ もう一度、安全確認しよう

交差点進入時は…

- ①あわてて行動しない
- ②交差点には、必ず「人」や「自転車」や「車」がいる
- ③相手は、「避けない」、「止まらない」…かもしれない

バックは、『カメが歩くスピードの気持ちで！』

車間距離を十分に！ 滑って、追突を未然に防止

夕方、夜間、早朝 要注意！ 歩行者が見えにくい 道路が滑りやすい

子供・高齢者は、動く赤信号！

## 年を取ると危機予測苦手に

認知症だけではない、増える高齢ドライバーの交通事故

2016/11/12(土) 8:05

高齢者による交通事故が相次いでいる。事故総数は年々減少する一方、高齢運転者による事故の割合は増加傾向が続く。2200万人もの団塊の世代が70歳代後半にさしかかる2025年を前に、社会全体での対策が急務となっている。警察庁のまとめによると、高齢ドライバーは今後も増えるとみられる。

高齢者事故の予防策として来年3月から導入されるのが臨時的認知機能検査だ。検査で「認知症の恐れ」と判定された75歳以上の運転者全員に医師の診断が義務付けられ、認知症と診断されれば、免許停止が取り消しとなる。

ところが、認知症などといった明確な症状だけが事故の原因ではない。高齢になると運動能力や判断力などが低下し、若い頃と同じように運転できなくなるのが一般的だ。

「機能的な衰えのほか、危険予測が苦手になり周囲の確認や徐行が少ない傾向にある」と、大学心理学部の教授(交通心理学)は指摘。「自分の運転の変化に気付かないケースがほとんど。『数十年間、無事故無違反だった』という経験があればそれだけ、一度教育しても正しい運転が持続しないことが多い」と分析する。

各自治体は高齢者に対して免許の自主返納を推進するが、移動の手段が狭まることなどから十分浸透していないのが実情だ。国は自動車メーカーの技術開発を推進し、自動ブレーキなど先進安全技術の普及も視野に対策を講じたい考えだ。

教授は「自動制御システム付きの車を購入する際に補助金を出すなど、高齢者の生活の質を落とさないような対策が必要になってくる」と話している。

## 午前1時 小学校教諭を酒気帯び運転の疑いで現行犯逮捕

2016.11.12 12:28

長野県警は12日、道交法違反(酒気帯び運転)の疑いで、小学校教諭の男性容疑者(49)を現行犯逮捕した。逮捕容疑は、同日午前1時34分ごろ、国道で酒気を帯びた状態で乗用車を運転したとしている。パトロール中の同僚が青信号で発進しない不審な車を見つけた。職務質問をしようとしたところ、車は突然動き出して縁石にぶつかって止まった。運転していた容疑者の呼気検査をした結果、基準値を超えるアルコールが検出された。